

職業はじめて物語

開港後にもたらされた外国文化の影響を受け、横浜から様々な職業が発展していきました。その多くは外国で行われていたサービスや製造技術などです。そんな港町横浜から始まった職業を探訪してみましょう。仕事の新たな魅力や、新しい発見がきっとあるはずです。

クリーニング

開港による外国人居留者が増え、和服が主流であった当時の社会に洋服の文化が浸透します。それに伴う西洋式洗濯の需要増加に起因し、1859年頃に本格的な西洋式洗濯業店が青木屋忠七氏により開業されたことからクリーニングの歴史が始まりました。

— 西洋洗濯どこからはやる はやる横浜谷戸の坂 —

場所：中区谷戸坂登り口左側



— 和服しかなかった日本に 華やかな洋装が登場した元町 —

場所：中区みなとみらい線元町・中華街駅3番出口となり



洋裁

1863年、英国人ミセス・ピアソンがドレスメーカーを横浜で開業したことが洋裁業の歴史の始まりです。

和服の仕立など、国内で衣類に関する仕事を生業としていた職人たちが居留外国人に技術を教わり、「洋服」の文化が急速に人々の間に広まっていきました。

一 ザンギリ頭をたたいてみれば

理容

文明開化の音がする

場所：中区山下公園内

西洋文化が波のように舞い込んできた時代の1869年、洋風化が進む港町横浜に国内初の西洋理髪店が開業されました。その後発令された「断髪令」に後押しされ、日本人の髪形事情は大きく変化していきました。今では当たり前前の洋風の髪形で街を闊歩(かっぽ)するその様相は、横浜から始まったのです。



塗装

一「塗装工事業」という

仕事の歴史は横浜から始まった

場所：中区元町公園内

古代から塗るという作業は、しぶ屋、ぬし屋、提灯屋などが行い、鎌倉武家文化で開花してきましたが、塗装発祥については諸説あるものの、明治中期頃に、ここ横浜にて塗装工事の請負として業態を確立し、塗装工事業の始まりとなりました。



幕末開港の翌年1860年に米国人O.Eフリーマン氏が写真の文化を国内に流入させます。その後、日本人として初めて商業写真業を始めたのが下岡蓮杖氏です。

当初、「写真を撮ると寿命が縮む」という理由で日本人には受けが悪かった写真業ですが、時代の流れと共に徐々に浸透し、現代の写真文化が形成されました。

一 馬車道で日本の写真業は開花した

写真

場所：中区馬車道の県立博物館前

